

自主防災体制のしくみ

「自主防災防災組織」は「安心」のもと

自主防災組織の活動は、災害時に「誰かがやってくれるのを待っているわけにはいかない。とにかく救出、救護、消火にみんなで立ち向かおう。」という気持ちの集約です。その活動は、少しでも組織的に、また合理的に準備されていた方が、個人個人バラバラに行動するよりは効果ははるかに大きなものがあります。

「自分たちの地域は自分たちで守ろう！」という自発的な意欲で、私たちの五霞町を「災害に強いまち」にしましょう。

ワンポイント

自主防災組織は、「名前だけはある」というような組織ではいけません。地域住民一人一人の自主的な参加意欲こそが重要です。



平常時の活動

非常時の活動

情報収集班	①地震その他の災害に関する情報の収集、伝達方法の確立 ②防災意識の高揚を図るための映画会、講演会等の開催やチラシの配布	①警戒宣言等の伝達 ②デマ防止 ③各種災害情報の収集、伝達 ④避難命令等の伝達 ⑤防災関係機関との連絡
消火班	①消火器の使い方、消火栓の使い方バケツリレー等の消火訓練指導 ②地区内の消火水利の確保	①出火防止の広報 ②火災の警報 ③消火活動
避難誘導班	①避難地、避難路の点検 ②避難訓練の実施 ③地区内の病弱者、高齢者、障害者等の把握	①避難誘導 ②火災の警報 ③病弱者、高齢者、障害者等の保護
救出救護班	①負傷者の救出、救護に必要な用具の調達、技術の習得 ②救出救護訓練の実施	①負傷者の救出、救護活動 ②負傷者の医療機関、救護所への搬送
給食給水班	①各家庭の非常食、飲料水等の備えの指導 ②災害時における給食、給水計画 ③炊き出し訓練の実施	①食料の炊き出し ②生活必需品等の調達 ③救援物資、物品の配分の協力

地域みんなの協力

「向こう三軒両隣り」は、助けることもあれば助けられることもある。思いやりのあるやさしい地域関係を。



いのちを守るには、まわりの協力が必要

初期消火も避難も、自分の家族やいのちを守るのは自分たちでするしかありません。しかし、災害時にはそれすら困難な人たちがいます。

防災の意識と知識を共有しましょう

新しい防災知識や地域の地形環境、ここ最近各地で発生した災害について、地域全体で考えるようにしましょう。



手助けの必要な立場の人がいます

緊急時に備える環境づくり、行動が困難な人がいます。自分の地域の中で、日常のお付き合いを通して、そのような人を知ること、その人たちには緊急時にどのような支援が必要なのか地域で把握しておきましょう。



災害時要援護者対策の必要性

近年の豪雨災害では、住民への情報の伝達に時間を要し、被災した例がありました。また、阪神・淡路大震災を始め、最近の地震災害においても、急激な環境の変化、特に避難所生活による病状の悪化やストレス等による死亡（震災関連死）も多数に上りました。そして、それらの多くが災害時要援護者といわれる方々でした。

したがって、これらの方々を災害発生時にどのようにして救援するかについて、具体的な対策を講じる必

要があります。町は、災害時要援護者支援マニュアルを作成し、災害時要援護者の登録を随時受付しています。

要援護者とは

要援護者とは、災害が発生したとき又は災害の危険が迫ったとき、必要な情報を的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなど一連の行動を取るのに支援を要する人々のことで、一般的に高齢者、障害者等が挙げられます。